

文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第52回）議事概要

開催日及び場所	令和3年1月15日（金） 文部科学省会計課会議室及びリモートオンライン会議	
出席委員 (敬称略)	○委員長 有川 博（日本大学客員教授） ○委員 大谷 益世（公認会計士） 楠 茂樹（上智大学教授） 清水 光（弁護士） 松浦 亨（北海道大学病院客員診療教授）	
審議対象期間	第2四半期（令和2年7月1日～9月30日）	
個別審査案件	8件	○議事 (1) 令和2年度第2四半期に締結した契約の概要 (2) 個別審査対象案件 (3) その他
一般競争入札方式	7件	
最低価格方式	4件	
最高価格方式	0件	
総合評価方式	3件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	1件	
企画競争	1件	
公募	0件	
競争性のない随意契約	0件	
不落随意契約	0件	
事前審査案件	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	審議の過程で検討や見直しをしていただきたいと申し上げた点については適切に対応をお願いすることとし、全体としては問題なく処理されている。	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>個別審査案件について（以下、審査順）</p> <p>①「防災備蓄品の購入 一式」 【一般競争（最低価格落札方式）】 （大臣官房会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一者応札となった理由は何と分析しているのか。 ・ 仕様書で例示品を示しているが、例示品では要求されていることが分からないが、何を満たせばよかったのか。 ・ 予定価格の立て方に関して、実績を基に係数を掛けたということなのだろうが、応札者におけるいわゆる値引き率を掛けたということか。 ・ 文部科学省・金融庁・会計検査院の3者で共同調達しているが、それぞれ納入期限が違うのはどういう理由か。 ・ 納入期限の違いが業者の参入障壁になるということは考えられないか。共同調達に際しての納入期限について、少し検討していただきたい。 <p>②「令和2年度「Specialプロジェクト2020（特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業）一式」 【随意契約（企画競争方式）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災備蓄品の独自の調達経路を確保している他の業者が、入札情報を把握していなかった等々が挙げられる。今後は入札公告以外にも幅広く声掛けを行い、多くの入札参加を募っていきたい。 ・ ご指摘のとおり、不明瞭であるので、今後資料作成の際に検討させていただきたい。 ・ 国立大学法人等の文部科学省関係機関に対して、契約実績ということで照会をかけ、それを基に算出したものである。 ・ 各機関ごとに、在庫品の在庫状況等を処分等をした上で、それぞれの機関で受け入れられる期間を設定している。 ・ 検討したい。

(スポーツ庁健康スポーツ課)

- ・ 一者応札となった理由は何と分析しているのか。
 - ・ 今回大学と契約を結んでいるが、審査委員名簿の中に同大学所属の教授が含まれているが、本件の審査に加わっていたのか。
 - ・ この事業の公募について、単にアナウンスしただけではなかなか思ったような応募もないと思われるし、今後どう工夫してやっていくのか。
 - ・ モデル事業としてこれまでやった実績を広報していかないと、新しく手を挙げようという人たちはどの辺に問題があって、今どういった成果が出ているのかというのが分からないと思うが、その辺はどういうふうに工夫するつもりか。
- ・ 本件は2回目の公募で、すでに緊急事態宣言下の中での公募であったため、その影響があって、最終的に1者になってしまったものと考えている。業者に聞き取り調査を行ったところ、公募の周知についてはもう少しいろいろな手法でやっていただきたいという回答あり、次年度は周知方法等改善した上で、調達を行っていききたい。
 - ・ 利害関係者に該当するので、その委員は審査から外れていただいた。
 - ・ 予算の枠内ではあるが、事業規模の金額をもう少し増額して、より大きなモデルとしてやってもらうことも検討している。
 - ・ 本事業の成果報告書はホームページで掲載するとともに、特徴的な事例については、都道府県の担当者が集まる会議等で広報をしているところ。そこでの説明方法や内容も少し詰めて、分かりやすく広めるような形でやっていければと思っている。

③「令和2年度「生活文化調査研究事業（茶道）」

委託業務 一式」

【一般競争（総合評価落札方式）】

（文化庁地域文化創生本部）

④「令和2年度「生活文化調査研究事業（華道）」

委託業務 一式」

【一般競争（総合評価落札方式）】

（文化庁地域文化創生本部）

※③④は関連する事業であることと受託業者が同一

<p>業者であったため、同時に審査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落札率が 100%であったのは、技術点が最も高かった業者の参考見積額と入札額が同額だったからか。 ・技術点が高い業者をはじめないよう、市場価格との比較や精査が甘くなったといった、そういう心配はないか。 ・この 2 つの発注を分けた理由は何か。 ・専門性が高いので、それぞれを得意にしている業者に競争してもらおうと思ったら、結果的に同一業者が両方を落札するというのは、その分野の専門性がなくとも、調査研究のプロであれば大体どの業者でもできたのではないかという意味で、どう受け止めているか。 ・それぞれ専門分野として成果報告書がまとめられる必要があると思うが、一般にいつ広報される予定か。 ・見積額と入札額の一致していた点について、再度市場価格との比較で、妥当性として問題ないかどうか検証しておいていただきたい。 <p>⑤「令和 2 年度文化庁映画週間の企画運営 一式」 【一般競争（総合評価落札方式）】 （文化庁参事官（芸術文化担当）付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおり。 ・かなりシビアに見たが受託した業者の入札額がかなり低く、結局そちらを採用せざるを得なかった。 ・茶道と華道というのは、似たようなものと捉える向きもあるが、全然異なるもの。また、一緒に発注してしまうと、大きな業者しか入札できないだろうということも考えられたので、専門性が違うということを重視して、それぞれ分けて発注した。 ・結果を見れば、様々な団体が参画しやすいように分けて発注した意味はあまりなかったと思っている。 ・年度末に公表予定である。 ・承知した。
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった理由は何と分析しているのか。 ・この事業は平成 16 年から実施していて、同じ公益財団法人が毎年受注しているとのことだが、新規参入の障壁となっている東京国際映画祭との連携協力は必須要件なのか。 ・本事業を一般競争の総合評価落札方式で実施する以上、ほかの者が参入できるような工夫をしないと形だけの競争になる。その工夫はどういうふうなことをしているか。 ・次年度以降、どのような工夫をしていけば、競争が生まれると考えるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で最も大きい映画のイベントである東京国際映画祭、これと連携して実施するということを要件としていて、なかなか要件としてはハードルが高かったということが、アンケートから伺える。 ・顕彰する対象があまり日の目の当たらないような分野なので、マスコミ等の関心もそれ単独ではなかなか注目を集めることが難しく、大きなイベントと併せて実施するということで、その顕彰効果、周知というものを高めるということから、我々としては、とても必須な要件だというふうに考えている。 ・我々も当該公益財団法人でなければできないとは考えていないが、いろんな業者と話をさせていただいている中で、御指摘のとおり、参入の壁は高いというふうに理解している。 ・過去、複数者が入札した年もあった。関心のある業者に対し懇切丁寧に説明をしながら、できる限り実質的な障壁をなくすという努力はしていきたい。
<p>⑥「教育課程研究指定校事業Web会議用機器レンタル 一式」</p> <p style="text-align: center;">【一般競争（最低価格落札方式）】 （国立教育政策研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった理由は何と分析しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響により調達機器（Wi-Fi ルーター、ウェブカメラ、マイクスピーカー）のレンタルの需要が多くなっており、仕様を満たす製品をまとまった数を用意することが難しかったためと思料する。

<ul style="list-style-type: none"> ・入札に参加しなかった業者からのアンケートで、参考機種を複数台提示していただきたかった旨の回答があったが、この回答をどのように受け止めているか。 ・参考機種を提示するやり方は場合によって、逆に入札に制約がかかってしまう可能性があるので、業者の便のために参考機種を、あくまでも参考というような形で例示するということはある程度得べしなのかもしれないが、大事なものは仕様を満たす製品を限定しないでほしいというところである。 ・リモートワークの需要が増している中で、同時発注、同時履行で、かつ長期間の賃借となると、なかなかそれを履行できる業者は限られてくると思う。ある程度時間を分けながら発注して、履行してもらおうというふうな工夫はしなかったのか。 ・リモートが不要な期間もレンタルし続けるのは、非常に無駄が生じてしまうので、調達の数あるいは調達の仕方、そういったものも全部検討していただきたい。次年度以降でも同じような問題に直面すると思うので、ぜひ検討課題としてほしい。 <p>⑦「令和2年度教育研究公開シンポジウム支援業務一式」</p> <p style="text-align: center;">【一般競争（最低価格落札方式）】 (国立教育政策研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争に参加した8者のうち何者が参考見積りを出してくれたか。 ・参考見積書の各項目の金額と市場価格を比較する 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような調達が初めてということもあり、参考機種を絞りきれなかったため、最低限の機能面を明示した。ただ、これだけの台数を調達するのであれば、例示品を示した方がより競争参加しやすい環境を作れたのかなと思料する。 ・1者でも多く競争に参加しやすい環境の整備を考えていきたい。 ・もう少し数の調達の工夫ということは今後考えないといけないという認識を持っている。 ・現場と相談しながら実績の状況を加味して調達業務に当たりたい。 ・8者全てから提出していただいた。 ・8者の参考見積もりとプラスして、ネット等で
--	--

<p>というやり方は、全者のそれぞれの項目の金額を市場価格と比較していったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の落札業者の落札金額と出してもらった見積り金額に大きく乖離があるが、その辺の具体的な事情というか、どここの部分は圧縮して、実際の金額にしたのかということについては把握しているか。 ・一般的に見積りは高めに出して、入札金額は低めに出すというのはよくあることだが、それでも実際の競争価格と見積価格が、大きく乖離している感じがして、その見積りを基に予定価格を組んだのであれば、そもそも予定価格とは何かみたいな問題が生じてくるが、どう受け止めているか。 <p>⑧「日本と主要国の科学的成果及び科学と技術のつながりを網羅的に分析するためのデータ更新作業（2020年分）」</p> <p style="text-align: center;">【一般競争（最低価格落札方式）】 (科学技術・学術政策研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった要因をどう分析しているか。 ・予定価格の積算方法について、もう少し丁寧に教えていただきたい。「過去3年間の類似の契約実績における参考見積と契約実績の差による値引率を元に積算した価格と参考見積書を比較し」というが、具体的にはどんな算式になるのか。 ・受託業者は、2年連続で本事業を受注しており、今の予定価格の積算方法で、この業者の見積りが本当に市場価格と比較して妥当なものかどうかと 	<p>調べた金額など、そういった物価資料等を調べ、それを積算項目として積み上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費単価の項目をはじめ、ほかの項目も一式で数量がまとまっているので、项目的にはどこか1か所が変わっているということではなく、満遍なく見直したのかと史料する。 ・今後の競争の在り方にも関わってくるので、しっかり分析していきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・本調達は、当研究所が保有するデータベースの更新を行う専門的な業務のため、新規業者が参入してこなかったものと考えられる。 ・過去の類似案件の調達のうち、平成29年度、30年度、令和元年度の参考見積書と契約金額から値引き率を算出した金額と今回入札に参加した業者から出してもらった参考見積書を比較して、低いほうを採用した。 ・今のところ1者しかおらず、かといって市場価格を採用できるような案件でもないため、過去の実績と照合して予定価格を立てるやり方で対
---	---

<p>というのは、どこで検証できると考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場価格かあるいはこの業者の履行実態を把握して本当に適切な見積金額になっているのかどうかを1回しっかり検証してはどうか。業者の履行実態を把握しないまま、このまま同じ一者応札が続けば、市場価格との妥当性が分からないままである。1者入札を解消できる見通し、ほかの業者が参入できるような環境をセットできるか。 現状の調達を続けていっても競争環境を整えるのは難しいのであれば、随意契約事前確認公募を実施し、できるだけ価格の妥当性を検証できるようなやり方を考えていてもらいたい。 	<p>応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界中の論文約 100 万件単位のを毎年収集し、特許との関係も調査するという非常に専門的な内容のため、我々も他業者の参入の可能性があるかということでいろいろ競争入札はしているが、現実的にはやっぱり現在落札している者以外はかなり難しい。 承知した。
---	--